



不況脱出の先駆けとなるか？ 中国経済



各地で建設工事が継続（開業準備中の北京・中央電視台新社屋）

世界経済と歩調を合わせるように昨年秋以降減速が目立っていた中国経済ですが、ここに来て、世界の主要国・地域の中で、いち早く不況の底から脱出（中国語で「走出低谷」）するかどうか注目が集まっています。

4月に公表された中国の2009年第1四半期の実質GDP成長率は、前年比+6.1%増と、2四半期連続で6%台の伸びにとどまりました。これは日本を含む先進国に比べれば相当高い水準ですが、中国にとっては、一般的に「雇用の安定を維持するために必要」と言われ、政府の目標となっている「前年比+8%」を下回る低い水準です。

ただ、足下の状況をみると、生産・出荷などの状況を示すPMI（購買担当者指数）や、自動車販売台数など、幾つかの経済指標に改善が見られてきました。金融機関の貸し出しも大幅な伸びを示し、大規模な資金が各種投資案件などに投入されていることがうかがわれます。

こうした動きは、中国政府が昨年秋以降、「積極的な財政政策と適度に緩和した金融政策」という方針の下に、次々と繰り出してきた経済政策が、徐々に効果を現してきたことによるものです。

しかしながら、2008年前半までのような力強い高成長に戻りつつあるとは未だ言えません。日本や欧米諸国が景気の低迷に苦しみ中で、輸出が中国の景気を牽引^{けんいん}することは当面期待できません。また、「農民工」と呼ばれる出稼ぎ労働者の失業や大学卒業生の就職難など、厳しい雇用情勢の下で、消費についても力強さに欠ける状況です。

こうした中で、唯一景気を牽引しているのは、政府の経済刺激策による投資です。この投資が今後、雇用情勢の改善および人々の所得増を通じて消費を喚起し、自律的な成長につながられるかが、中国経済の最大の課題であると言えます。（日本銀行北京事務所）



上／鉄道に対する需要超過から切符売場
はいつも長蛇の列（洛陽）。右／各都市
はたくさんの人出で賑わうが……（鄭州）

